

高炉休止は果たして「唯一最善の道」か? 見直しを!

展望

NO. 181

発行

日本共産党

神戸製鋼委員会

〒652-0811

神戸市兵庫区新開

地3丁目4-20

働く者の未来を限らず

しんぶん 赤旗

日刊 3400円 日経版50%



8月6日、神戸製鉄所藤井所長は、新聞社のインタビューで、神鉄の高炉を休止する方針について「競争力強化に向けて取り得る唯一、最善の道だ」との考えを示しました。果たして、そうでしょうか?

神鉄で働き続けたら?

「神戸で働くことを前提に家を買った。加古川通勤はできない」「加古川行は断りたい」「加古川に行くと云われたら辞める」「神戸で働けると思ってたのに、これでは詐欺だ」「仕事をやる気がおこらない」「若い者が大量に辞めるのではないか」・・・現場では不安の声がいつぱいです。協力会社では「仕事がなくなる」との悲痛な声が続いています。

不安や絶望の気持ちの裏に、神戸に愛着があり、そこで働き続けたいという気持ちがあることがわかります。この気持ち、高級鋼生産を担ってきた誇りとなって、技術や技能を高めて仕事を向上させたい意欲を生んでいます。

この気持ちを生かしてこそ、神戸製鉄所ひいては神鋼の将来の展望をつくれるのではないのでしょうか。

あの震災の時に、産業復興のシンボルとなった高炉再建は、ラグビーとともに、神戸市民の誇りです。高炉休止は地域経済をも破壊します。高炉休止を断念することが、みんなの生活や職場を守り、地域経済への社会的責任を果たす道です。

加古川に移して大丈夫?

神戸製鉄所では、少量多品種の高級鋼生産にとって大切な、上下工程間・直接間接部門間で緊密に連絡を取り合い、現場で柔軟に対応する現場力が発揮されてきました。外部環境が悪かった2012年度でも、実質損益はゼロベースと頑張っています。高級鋼の線材条鋼を生産する適切な規模であるからです。

一方、加古川は大型の製鉄所、大量生産で利益を稼ぐ構造です。できるだけ似たサイズの、しかも大型のサイズを生産することを指向してきた製鉄所です。

このような大型生産指向の加古川に神戸の上工程を移してうまくいくのでしょうか?

今後ますます厳しくなる品質向上の要求や生産在庫管理の課題。これに対して設備や操業条件が大きく替れば、大きな影響がでる。これは神戸でも何回となく経験したことです。この問題は机上の計算で片付くものではありません。

神戸と加古川では「ものづくり」の文化が違っており、その違いを過小評価はできません。うまくいかなければ、線材条鋼の「ものづくり」にとって大きな打撃となります。

鉄鋼にもプラス

内需主導の経済発展

今度の計画の大前提は「国内需要はこれ以上伸びない。加古川の粗鋼生産能力700万吨で将来とも対応できる」というものです。アベノミクスは「世界で一番企業が活動しやすい国をめざす」という方針の下、企業減税や労働分野の規制緩和で、海外進出に熱心な大企業を支援する政治を進めています。

しかしこれでは国民の所得は増えず、ますます内需が冷えて日本経済は立ち直りません。このような政治に対する批判が高まり、それが先の参院選で日本共産党を躍進させる力になりました。

日本経済が立ち直る道は、国民の懐を温めて内需主導の経済発展に進む道です。それは鉄鋼の需要回復にも貢献します。政治の転換が、企業経営にもプラスになるのは間違いありません。

組合ガンバレ!

労働組合も、職場と暮らしを守る立場で、政治と経営者に働きかける活動の強化を切に要望します。労働組合は、組合員の要望や気持ちを汲んで、会社に提言し、要求を実現させるという使命と権限を持った組織です。

今こそ、この本来の役割を発揮すべき時です。高炉休止で影響を受ける、神鋼社員、関連協力会社の社員、納入業者、地域の人々のために一大奮闘を!



みなさんの声をお寄せください。情報源はキチンと守りますので、ご安心ください。その声に応じて、会社や労働組合に働きかけていきます。

TEL: 078-577-6255 Fax: 078-577-2240 メール: info@jcp-shinko.jp ホームページからも送れます (<http://www.jcp-shinko.jp>)

参議院選挙

共産党の大躍進で自共対決の時代へ

あと1~2議席増やして、維新やみんなを追い越して欲しかったわ



共産党に入れたよ!

衆院選では悔しかったけど、今回はよかったね!

参院選投票の翌日、出勤すると、周りの人たちが、いろいろな声がか嬉しかった。



7月21日の参院選で、日本共産党は、比例区で5議席の目標を達成し、東京・大阪・京都の選挙区でも勝利して、改選前の3議席から8議席へ大躍進しました。政党の力を表す比例区の得票では、3年前の前回参院選を159万票上回りました。神鋼で働くみなさんからも多くの支持をいただきました。心からお礼申し上げます。

民主党は国民から見放され、「第3極」も悪政をいっそう極端に推進することが判明して、勢いを失いました。こうして、自民党と共産党の間の「受け皿政党」が支持を失い、政治は「自共対決」の時代に入りました。

選挙戦全体では、自民党・公明党の与党が過半数を獲得しました。この結果、「衆参のねじれ」が解消したといわれていますが、国民多数の声と自公政治との「ねじれ」はいっそう深刻となっています。消費税増税、原発再稼働、憲法・TPPや米軍基地問題など、安倍内閣の進める方向と国民の願いの矛盾は大きくなり、政治を変えたいとの声が高まるのは間違いないと思います。私たちは、この声を受け止めて、国民の願いを実現のために、全力をあげて奮闘することを約束します。

「安倍政権の暴走に歯止めを」との国民の期待を受けて、日本共産党の新参院議員8人が8月2日朝、初登院しました。「わくわくしています。議席が増え、大きくなった発言権でどんな活躍ができるか楽しみです」と話す倉林明子議員(京都選挙区)。各党の新人議員のなかで、とりわけ多くの報道陣に囲まれたのは最年少30歳の吉良よし子議員(東京選挙区)です。記者に決意を問われ、「初めてのことが多くて緊張もしているけど、私は一人じゃない。支えてくださるみなさんと一緒にがんばっていきます」「このバッジには(支援者の)一人ひとりの思いが詰まっています。この声を必ず届けます」と力を込めました。



神鋼で働く仲間のみなさん、日本共産党とともに、未来を切り開いていこうではありませんか!